



臨時号

仁和だより



令和7年12月24日

京都市立仁和小学校 校長 佐野 丈夫

Eメールアドレス ninna-s@edu.city.kyoto.jp

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果

4月22日に、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。文部科学省が公表した結果をもとに学校で分析・考察を行った結果をお知らせします。本調査は、国語と算数・理科の3教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されました。その結果より、本校の子どもたちの学力や意識などの状況をお伝えします。

総合結果（国語・算数・理科）

国語と算数・理科の3教科ともに、全国平均を上回り、全体的に良い結果でした。多くの児童が授業中に主体的に学習したり、丁寧に家庭学習に取り組んだりして、学習を積み上げてきた成果が出てきていると考えます。しかし、個々の問題について分析をすると、課題もあることが分かりました。今後、その課題解決に向けて取り組んでいきたいと思います。

国語科より



全体的にできています。特に、「時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づくかどうかをみる」問題や「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を捉える」問題は、正答率が高かったです。しかし、「話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる」問題と「図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」問題に落ちこみが見られました。どちらにも「自分の考えが伝わるように表現を工夫する」という点が共通しており、昨年度も課題にあがっている内容でした。また記述式では無回答も気になりました。今後も、自分の考えを表現する場を意図的に設定し、「目的・意図」「相手・状況」に応じて、「根拠を関連付け」たり「情報を明確」にしたりして、「自分の考えを表現する」ことを大切に取り組みます。

算数科より



全体的にできています。知識・技能の観点に関する問題は全市に比べても正答率が高く、基礎的な学習をきっちと定着できていることが分かります。しかし、「数直線上で1の目盛りに着目し分数を単位分数の幾つ分としてとらえる」問題と「目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する」問題には、課題が見られました。

日々の授業やチャレンジ学習の時間・宿題などで、基本的な内容を定着すること続けることを大切に、算数だけでなく他教科でも「目的」に応じて「数量・データ」を関連付けて考察・判断し表現する場面を取り入れていきたいと思います。

理科より



全体的にできています。A区分「エネルギー」「粒子」・B区分「生命」「地球」に区分したところ、「生命」についての内容が全国に比べてポイントが高かったです。

「結果やまとめを基に、他の条件での結果を予想して、表現する」問題や「顕微鏡を操作し、適切な像を見るための技術が身についていることをみる」問題については、正答率が高かったです。

「身の回りの金属について電気を通すもの・磁石に引き付けられるものがあることの知識を問う」問題や「発芽の条件について差異や共通点を基に新たな問題を見出し表現する」問題に課題が見られました。授業の中でも、必要な情報を選び、既習事項を活用しながら、表現する場面を意図的に設定していきたいと思います。

児童質問紙調査から



児童質問紙回答の結果より、

(5) 自分にはよいところがあると思う	86.5%	(7) 将来の夢や目標を持っている	86.5%
(12) 学校に行くのは楽しいと思う	88.0%	(14) 友達関係に満足している	95.5%

などの項目について、全市や全国と比べて肯定的な回答をしている児童が多く、学校は楽しく自分児童も前向きに過ごしていることがうかがえます。ただ、否定的な回答をしている児童もいるのでその児童については個別に関っていく必要性も感じています。

学習面においては、自身の課題を把握し、見通しをもって学習することを求められる中、以下の項目に注目してみました。

(16) 分からないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え工夫する	86.5%
(32) 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいる	【否定的な回答】25.4%
(36) 学習した内容について分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている	【否定的な回答】16.4%
(国1・算1・理1) 文章で書く問題についてどのように解答しましたか	
【書く努力をした以外を選んだ児童】国語 19.4% 算数 23.9% 理科 19.4%	



自身の課題を把握し見通しをもって学習する過程で自ら考え行動し困難と向き合う中で、主体的に挑戦する姿勢や、成功体験により自信がつきます。学校では日常生活だけでなく、教科の学習過程の中で、子どもたちは自分の課題に向き合ったり試行錯誤したりすることとなります。上の結果では、自分で考え工夫できていると肯定的な結果である一方、否定的な回答が気になります。否定的な回答のように、分からないことをそのままにしていることで、その後の学習においての困りが出てくることとなります。分からなかった点を見直し、次の学習につなげる姿勢を学んでいくことも大切にしたい点です。

また例年、書く問題について無回答の児童が多くなります。今回の結果では、書く努力をできなかった児童も一定数いることが分かります。できなくてもチャレンジして課題に向き合う粘り強さについても大切にしたいです。

そのために、現段階での困りに一緒に向き合い、できるサポートを考えていかなければいけません。また課題に向き合う時にスモールステップで、無理なく乗り越えられる経験を少しずつできるようにしていきたいと思います。

最後に、以下の項目より、

(13) 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う	82.1%
(35) 学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり新たな考え方に気づいたりできている	【否定的な回答】20.9%

学校で学ぶ良さは、友だちと学び合う楽しさを感じられることです。自分と違う意見に触れ、お互いを認め合いながらも伝え合い、話し合っていく過程をこれからも大切にしていきたいです。そしてそのよさを子ども自身が感じれば、主体的に表現できるようになっていくと考えます。



保護者の皆様へ

全国学力・学習状況調査は、子ども達の学力・学習状況等を知り、子ども達の可能性を更に伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものです。本校では、「ゆめに向かって、自ら学び 自ら考え たくましく 共に生きる 仁和の子」という学校教育目標のもと、子ども達が個別最適な学びや協同的な学びをを通して、主体的・対話的な深い学びが進められるように、保護者の方や地域の方々のご協力を得ながら、取組を続けています。今後も子ども達が主体の授業改善を更に図っていきます。

質問紙の結果からは、子ども達の主体的でいろいろな意見に寛容な態度が伺えます。これも、ご家庭での丁寧な関わりや支えがあってのことだと思います。今後も、各教科において身に付けた「知識や技能」を活用し、「思考力・判断力・表現力」を働かせながら、学びを深めていけるような指導に努めていきたいと思っています。ご家庭でも、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりに、引き続き、ご協力をよろしくお願いいたします。